

新潟県の除雪体制の課題と新たな取組 除雪オペレータの担い手確保に向けて

伊藤 匠＊1

1. はじめに

令和2年12月は記録的な大雪のため、関越自動車道において最大約2,100台の車両滞留が発生しました。また、年が明けた1月にも短期間での記録的な大雪となり、特に長岡市、柏崎市、十日町市、上越市、妙高市及び糸魚川市では災害救助法が適用されるほどの大雪となりました（写真1）。

本県において、冬期の道路交通を確保するための道路除雪は、県民生活や経済活動を維持するために重要な業務です。

本稿では、令和2年度大雪の影響や近年の雪対策を取り巻く環境の変化を踏まえ、本県の課題やその解決に向けた取組等を紹介します。



写真1 車両のすれ違いが困難な様子（上越市下名柄）
一般国道253号（令和3年1月11日撮影）

2. 課題

（1）担い手確保

人口減少・少子高齢化問題の影響を受けて、本県における除雪作業を担う除雪オペレータの担い手の減少や高齢化が進行しています。既に、50歳以上のオペレータが全体の約47%を占め、61歳以上のオペレータは、年々、着実に増えている状況です。この現状が続けば、近い将来のオペレータ不足が懸念されます（図1）。

現状では体制を維持できているものの、令和2年度のような大雪となった場合、除雪の出動が連続すると交替要員が確保できず、結果として除雪が追いつかないという状況が発生してしまいます。このようなことから、県民の生活を支える冬期道路交通確保のため、オペレータを確保することが課題となっています。

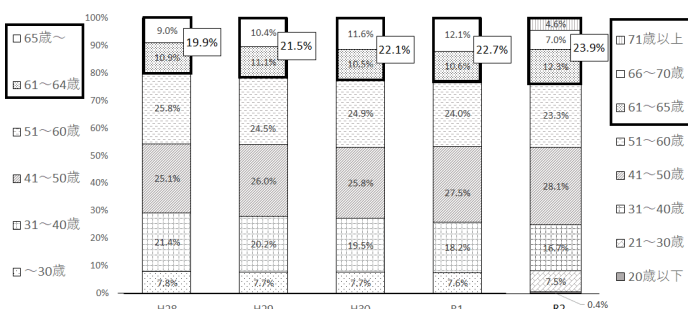


図1 新潟県における除雪オペレータの年齢構成割合
（令和2年度県除雪業者へのアンケート結果より）

（2）大雪への対応

前述したとおり、令和2年度の大雪対応では、オペレータの交替要員が確保できず、連続して出動していたケースがありました。

新潟県気候変動適応に関する研究会の提言書によると、降雪は全体的には減少するものの、たまに起こる極端な降雪の頻度が増える可能性があるとの報告されています。短時間の降雪量が観測史上最高を記録する異常降雪等、引き続き極端な降雪に備える必要があります。

このことから、単独の道路管理者の除雪体制だけでは除雪が間に合わなくなることを想定し、非常時は道路管理者間の垣根を越えた相互応援が重要になると考えます。

また、令和2年度の大雪では、関越自動車道や幹線道路においてスタック車両が発生しました。スタック車両による長時間の車両滞留は道路利用者の人命に関わる重大な事象であるものの、その解消には時間を要してしまい、更に、周辺道路の除雪作業の遅れにつながるなど、地域の交通に大きな影響を与えます。

大雪が予報される場合には、通常の除雪ができない可能性があること、不要不急の外出を控えることやチェーン装着の徹底等について、道路利用者へ広く周知することが必要です。

3. 担い手確保に関する新たな取組

担い手確保の課題に対し、現在進めている取組を紹介します。

（1）担い手確保に関する協議会の発足

持続可能な除雪体制の構築を目的に、道路管理者や関係機関が連携し、担い手確保や関連する課題の解決に向け

た取組を検討するため、令和3年3月26日に「新潟県除雪オペレータ担い手確保協議会」を発足しました（写真2）。



写真2 新潟県除雪オペレータ担い手確保協議会の様子

この協議会は、「本部協議会」と「地域協議会」の2部構成となっており、県内12の地域でそれぞれ協議会を設置し、各地域協議会の現状や課題に対する取組を3か年かけて行う予定としています。また、課題や取組については、全地域で共有することとしています。

これまでに4回の本部協議会を開催し、地域の現状や課題について取りまとめました。主な課題や現状として、

- ・除雪作業は苦情を受けるばかりで敬遠されがち、若手はやりたがらない
 - ・期間雇用のオペレータを確保している
 - ・少雪時においてもオペレータの収入確保が必要
- などがあがりました。

また、本部協議会では、協議会委員から

- ・新規入職や離職防止といった観点からPRは重要
- ・ICTの新技术の導入により経験の浅いオペレータの支援が必要

といった意見が上がりました。

今後も対策の検討を進め、担い手確保に向けた取組を継続していきます。

（2）ニイガタ除雪の達人選手権の開催

令和2年度に、国土交通省北陸地方整備局、南魚沼市、湯沢町、NEXCO東日本新潟支社及び（一社）新潟県建設業協会と連携し、除雪オペレータの操作技術を競い合う競技会を実施しました（写真3、4）。



写真3 ニイガタ除雪の達人選手権（競技中の様子）



写真4 ニイガタ除雪の達人選手権（表彰式の様子）

除雪オペレータの技術力向上やモチベーションアップ・人材育成と併せ、住民の除雪への理解促進を諮ることを目的としています。

今年度は、10月31日に「第2回ニイガタ除雪の達人選手権」を新潟県胎内市で開催しました（図2）。



第1回開催の動画



第2回開催について

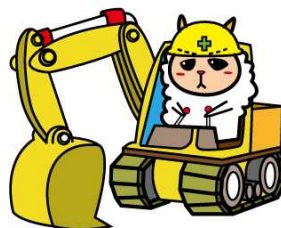


図2 第2回ニイガタ除雪の達人選手権のポスターとイベント紹介のQRコード

4. おわりに

除雪オペレータに限らず、人材の確保・育成は一朝一夕になしえるものではありません。関係者が危機感を共有し、先を見据えた長期の取組が必要と考えますが、昨年度の異常降雪の対応を振り返ると、今すぐ行う取組も必要と考えられます。

今後も、様々な取組により安定的な冬期道路交通の確保に取り組んでいきます。



こめゆきくん
（新潟県土木部の
キャラクターです）